

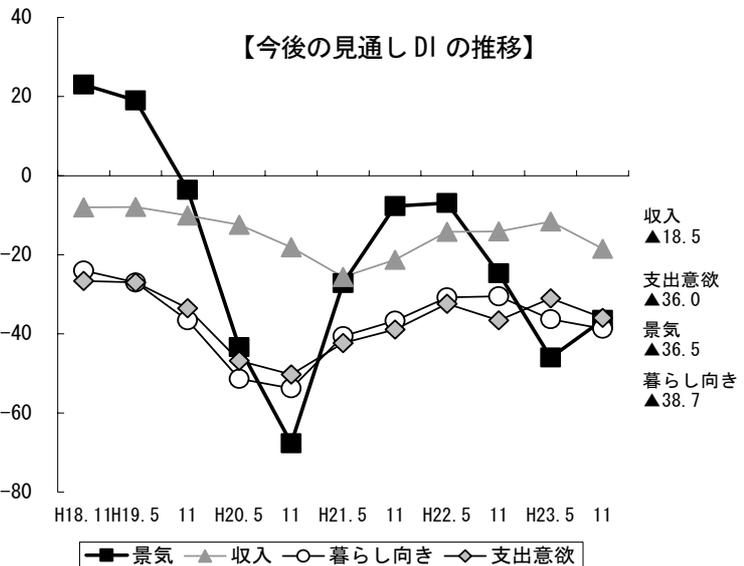
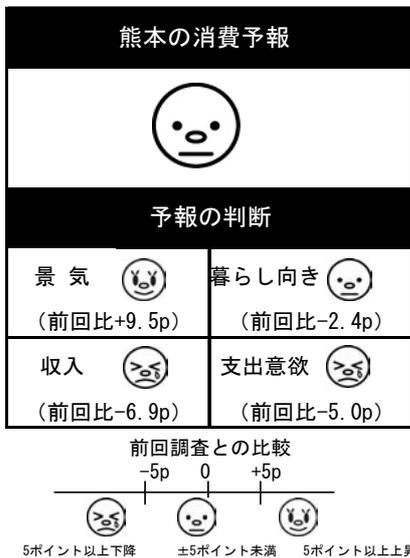
第26回 熊本の消費予報調査 (平成23年11月調査)

景況感は回復するも、消費マインドは依然として低迷

当研究所では、熊本市在住の女性モニターを対象として、平成11年5月より「熊本の消費予報調査」を実施しているが、今回はその26回目となる。本調査では、消費マインドに影響する「景気」、「暮らし向き」、「支出意欲（支出の引き締め）」に対する意識と、実際の消費に関わる「収入」の増減という4つの項目について、今後半年の見通しを尋ねている。その上で、以上4つの項目と「支出」から総合的に判断し、熊本の消費予報を試みた。

【調査結果のポイント】

1. 「景気」の見通しDIが▲36.5と、前回は9.5ポイント（以下,p）上回った。前回は東日本大震災の影響を受けて大幅に低下した景気見通しDIだが、震災から半年以上経過したことで改善傾向にあるも、依然として低水準になっている。
2. 一方、「収入」の見通しDIは前回は6.9p下回る▲18.5となり、5期ぶりに収入見通しが悪化した。さらに、「暮らし向き」の見通しDIは前回は2.4p下回る▲38.7、「支出意欲」の見通しDIも前回は5.0p下回る▲36.0となった。収入の厳しい見通しを受けて、支出を抑える傾向が見られる。



【調査の概要】

1. 調査対象：熊本市在住の20代から60代の女性モニター500人
2. 調査時期：平成23年11月9日～21日
3. 調査方法：郵送法
4. 有効回答：427人（回答率85.4%）

【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	56	13.1
30代	89	20.8
40代	97	22.7
50代	94	22.0
60代	91	21.3
合計	427	100.0

1. 景気の見通し

景気の見通しDIについて見ると、前回は9.5p上回る▲36.5となっており、すべての年代で改善している。前回は、東日本大震災の影響による景気悪化を懸念して、景気の見通しが大幅にマイナス水準となった。今回は、震災から半年以上経過したこともあり、大きく改善したものの、依然として景気見通しは低い水準になっている（図表1、2）。

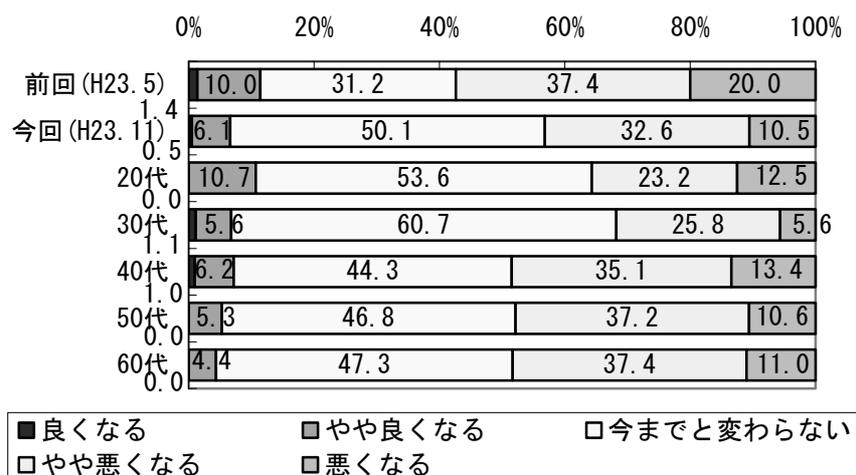
自由回答のコメントには、円高の影響や欧州経済問題が景気に与える影響を懸念する意見が多く見られた。また、「はっきり決まっていないことばかりで先が見えない」といった回答もあり、先行きに不安を感じている状況が見受けられる。

図表1 景気の見通しDI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今 回		前 回 (H23. 5)	前々回 (H22. 11)
	(H23. 11)	前回比		
全 体	▲ 36.5	9.5	▲ 46.0	▲ 24.7
20 代	▲ 25.0	0.0	▲ 25.0	▲ 5.1
30 代	▲ 24.7	16.1	▲ 40.8	▲ 15.7
40 代	▲ 41.3	11.3	▲ 52.6	▲ 30.0
50 代	▲ 42.5	5.8	▲ 48.3	▲ 31.9
60 代	▲ 44.0	13.4	▲ 57.4	▲ 37.7

図表2 今後半年間の景気の見通し



2. 収入の見通し

収入の見通しDIを見ると、▲18.5と前回は6.9p下回っている。平成21年5月調査から改善傾向にあった収入見通しであるが、5期ぶりの悪化となった。今回は、すべての年代で悪化しており、収入に対して厳しい見方をしているといえる（図表3、4）。

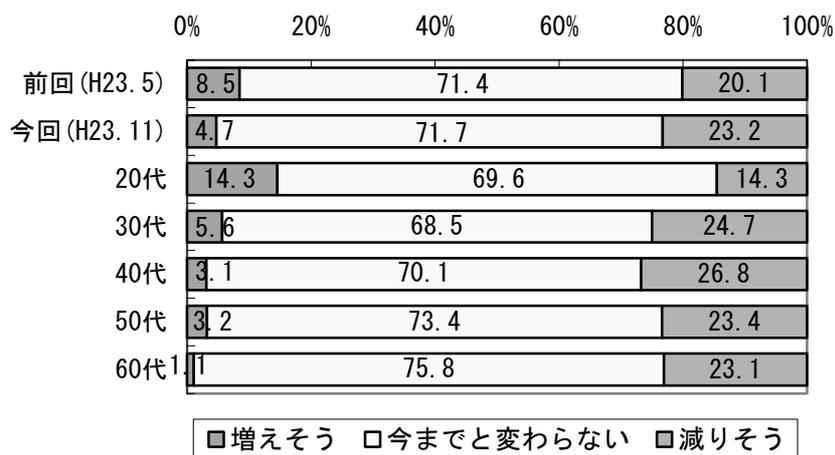
子ども手当で受給者では、今後の支給に対する不安を抱いているとの意見が出ている。また、国家公務員給与削減が国会で議論されていたことをうけ、公務員世帯で収入への不安が高まった。さらに、年金受給者では、年金が減額されることを不安視する人が少なくなかった。総じて、収入に対して期待が持てないと感じている人が多いと思われる。

図表 3 収入の見通し DI

DI=「増えそう」－「減りそう」

	今 回		前 回 (H23. 5)	前々回 (H22. 11)
	(H23. 11)	前回比		
全 体	▲ 18.5	▲ 6.9	▲ 11.6	▲ 14.1
20 代	0.0	▲ 6.3	6.3	▲ 12.6
30 代	▲ 19.1	▲ 6.2	▲ 12.9	▲ 8.9
40 代	▲ 23.7	▲ 7.2	▲ 16.5	▲ 21.1
50 代	▲ 20.2	▲ 6.8	▲ 13.4	▲ 12.6
60 代	▲ 22.0	▲ 6.2	▲ 15.8	▲ 15.3

図表 4 今後半年間の収入の見通し



3. 暮らし向きの見通し

暮らし向きの見通しDIは、▲38.7と前回は2.4p下回る結果であった。40代が14.4pの改善、60代も2.0pの改善が見られるものの、全体としてはかなりの低水準といえる（図表5、6）。その中でも、50代はほかの年代に比べて、暮らし向きが悪化すると考える比率が高くなっている。

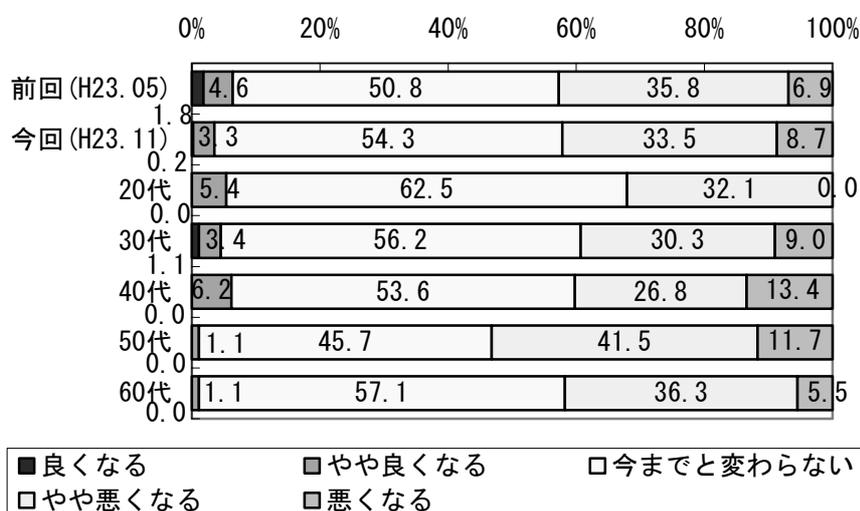
自由回答には、「収入は増えないのに、社会保険料や税金の負担が大きい」という回答が見受けられた。さらに、今後の医療費負担や子供の成長に伴う教育費の増加、物価上昇なども懸念材料として挙がっていた。

図表5 暮らし向きの見通し DI

DI=(「良くなる」+「やや良くなる」)-(「悪くなる」+「やや悪くなる」)

	今回 (H23. 11)		前回 (H23. 5)	前々回 (H22. 11)
	前回比			
全体	▲ 38.7	▲ 2.4	▲ 36.3	▲ 30.5
20代	▲ 26.7	▲ 9.5	▲ 17.2	▲ 12.7
30代	▲ 34.8	▲ 11.1	▲ 23.7	▲ 14.5
40代	▲ 34.0	14.4	▲ 48.4	▲ 47.8
50代	▲ 52.1	▲ 8.7	▲ 43.4	▲ 43.0
60代	▲ 40.7	2.0	▲ 42.7	▲ 32.3

図表6 今後の暮らし向きの見通し



4. 支出意欲の見通し

今後支出を緩めるかどうかを見る支出意欲DIは、前回は5.0p下回る▲36.0であった。40代を除くすべての年代で大幅に悪化しているが、なかでも50代、60代は10p以上の下げ幅となった（図表7、8）。この世代は、世帯主の退職による生活の変化や年金への不安から、引き締め意識が高いものと思われる。

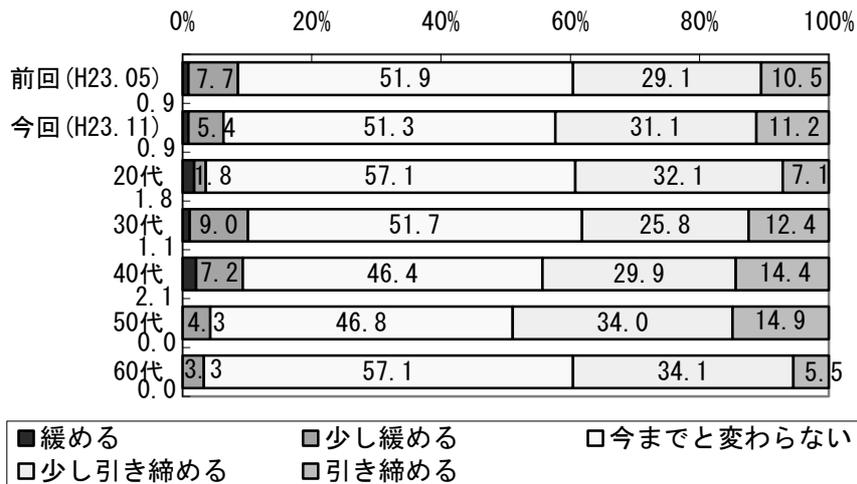
自由回答では、「収入が増える見込みがない」、「収入が減りそう」といった回答が多かった。また、「無駄なものは買わない」というコメントが見られ、支出を引き締めようとする傾向がうかがえた。

図表 7 支出意欲の見通し DI

DI=(「緩める」+「少し緩める」)-(「少し引き締める」+「引き締める」)

	今 回		前 回 (H23. 05)	前々回 (H22. 11)
	(H23. 11)	前回比		
全 体	▲ 36.0	▲ 5.0	▲ 31.0	▲ 36.6
20 代	▲ 35.6	▲ 7.5	▲ 28.1	▲ 41.8
30 代	▲ 28.1	▲ 3.1	▲ 25.0	▲ 32.6
40 代	▲ 35.0	8.3	▲ 43.3	▲ 46.7
50 代	▲ 44.6	▲ 12.4	▲ 32.2	▲ 29.8
60 代	▲ 36.3	▲ 12.1	▲ 24.2	▲ 33.0

図表 8 今後の支出意欲の見通し

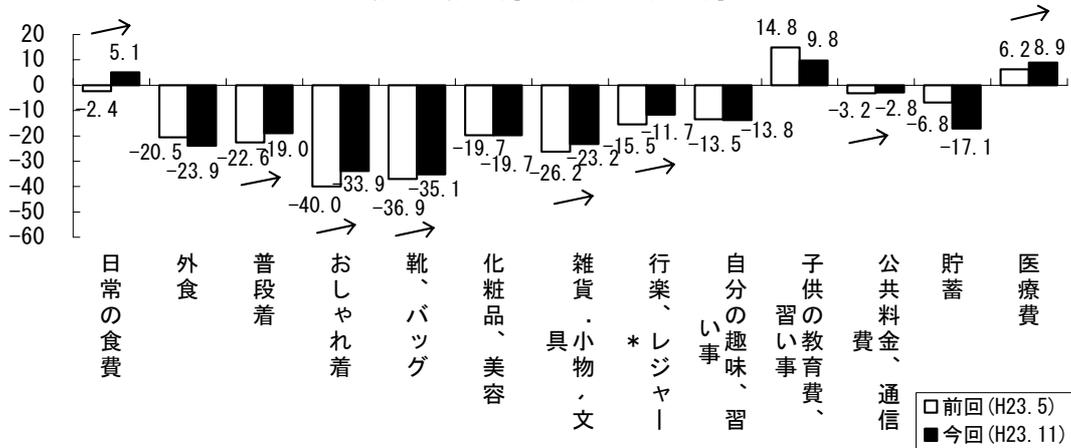


5. 日常的な支出の見通し

日常的な支出の見通しDIを見ると、13項目中8項目でDIが改善した（図表9）。前回は全体的に引き締め意向が強く出ていたが、今回は、「普段着」、「おしゃれ着」、「雑貨・小物、文具」などでマイナス幅が縮小しており、支出を緩める傾向が見て取れる。なかでも、「日常の食費」が物価上昇を受け、5.1と前回は7.5p上回っているのが目につく。また、前回に比べてマイナスとなった4項目のなかでは、「貯蓄」が前回は10.3p下回る▲17.1に低下した。「将来に備えて貯蓄したい」という希望はあるものの、実際には貯蓄するのは難しいことがうかがえる。

図表 9 日常的な支出の今後の見通し DI

DI=「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」



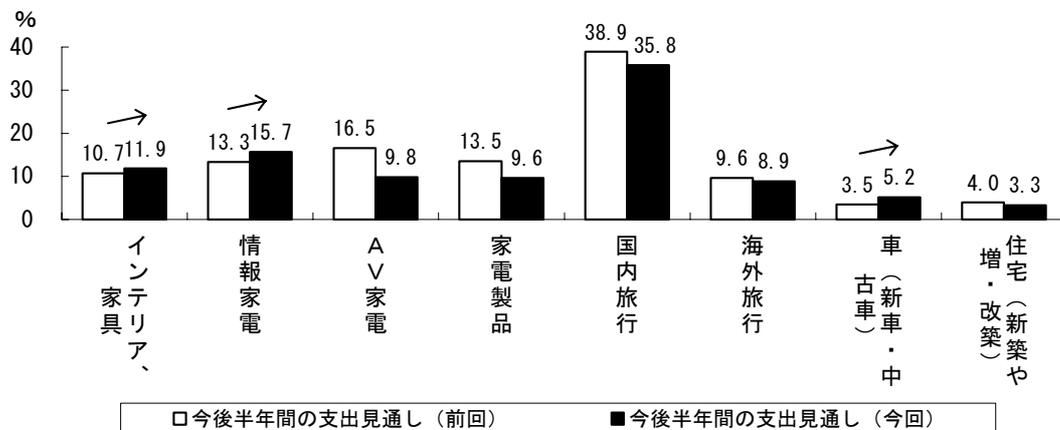
※「行楽、レジャー」は、国内旅行・海外旅行を除く。

6. 非日常的な支出の見通し

非日常的な支出の見通しを見ると、「情報家電」が2.4p上昇している（図表10）。携帯電話を購入するという回答が多く、スマートフォンへ切り替える人が多いと思われる。一方、「家電製品」は前回は下回ったが、エアコンやコタツを購入予定とした回答が見られ、今冬の節電を意識しての購入と考えられる。全体的に見て、「国内旅行」が前回は3.1p下回るなど、非日常的な支出見通しは前回は下回る項目が多く、収入源への不安からか、日常的な支出に比べ支出を引き締める傾向がうかがえる。

図表10 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し

支出見通し=今後半年間で購入計画ありの割合



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話、ファクシミリなど。

※2 AV家電とは、テレビ、DVDレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。

※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

以上